令和８年度　明石市表彰式　市長挨拶

市制施行１０７周年を迎えたこの記念すべき日に、令和８年度明石市表彰式を開催するにあたり、主催者を代表してご挨拶をさせていただきます。

本日は、ご来賓はじめ多くの方々にご臨席いただき、誠にありがとうございます。厚くお礼申し上げます。

このたび、市政、自治、教育、文化・スポーツ、福祉、社会、産業の各方面におきまして、それぞれ立派なご功績をあげられた皆様、市民の模範となる善行をなされた皆様、また優れた技能を有し地域社会の発展に貢献された技能職者の皆様、そして、明石警察署に勤務され、特に顕著な功績をあげられた警察官の皆様、総勢９８名と８団体の方々に、明石市民を代表して敬意と感謝の意をお伝えいたします。

そして、今年は、特にすばらしいご活躍をされたお２人に、市長特別表彰をさせていただきます。

お１人目は上地結衣さんです。今年、車いすテニスのウィンブルドン選手権でシングルス初優勝を果たされ、全豪オープン・全仏オープン・ウィンブルドン選手権・全米オープンの四大大会とパラリンピックのすべてを制する「生涯ゴールデンスラム」を、日本人女子選手として初めて達成するという偉業を成し遂げられました。長年にわたり世界の大舞台で挑戦を続け、栄冠をつかみ取ってきたその姿は、多くの市民に大きな感動と希望を与え、明石市民の誇りとなっています。

もうお１人は、作家の鳥山まことさんです。建築士として働く傍ら、小説の執筆を続けられ、小説『時の家』で、昨年第４７回野間文芸新人賞を、そして本年、第１７４回芥川龍之介賞を受賞するという快挙を成し遂げられました。建築士としての独自の視点で描かれた作品は高く評価されており、文学の分野で活躍される姿は「本のまち明石」の魅力をさらに高めていただいています。

このお２人に心からの敬意と感謝の思いを込めて表彰させていただきます。

さて、表彰を受けられる皆様は、長年にわたり、それぞれのお立場でご活躍され、本市の発展に寄与された方々、あるいは、地域で献身的な奉仕に尽くされた方々です。人知れぬご苦労もあったかと存じますが、それらを乗り越え、今日まで活動を続けてこられた日々のご努力に改めて敬意を表するとともに、活動を支えてこられたご家族をはじめとする周囲の皆様にも、深く感謝申し上

げます。
　皆様の更なるご活躍を祈念するとともに、これからも市民と共に創る明石のまちづくりにお力添えいただきますよう、心よりお願い申し上げます。

　私は、3 年半前に市長に就任してから、「市民みんなでみんなの明石をつくる」ことを目標にしてきました。全ての市民の皆さんが明石で暮らしてよかったと思え、笑顔で安心して住み続けることができるまちづくりを、市民のみなさんとともに取り組んでいるところです。
　さまざまなテーマで開催してきた市民との対話の場、タウンミーティングやワークショップは、１０５回を数え、参加していただいた市民は、3,300 人を超えました。
　対話は、情報を共有し、お互いの意見を尊重し、思いやりの心を大切にした共通の理解を深めるコミュニケーション手段です。多様化、複雑化する今こそ、欠かせないことだと確信しています。対話をすればするほど、市民ニーズや地域課題が明らかになります。そこで、産官学民の皆さんとともにみんなの明石を創っていきたいとの思いから、共創という言葉が生まれ、共創プラットフォームを立ち上げて取り組みを進めてきました。
　先月には、１０月１９日から２５日までの一週間、昨年に続いて 2 回目の「対話と共創ウィーク」を開催し、大小さまざまなイベントやワークショップに、多くの市民の方が参画してくださいました。
　これからも多世代の共創を大切にしながら、まちづくりを進めていきたいと思います。
　今後も安全・安心に暮らすことができる、すべての人に笑顔あふれるやさしい明石のまちづくりをしっかりと進めていくために、皆様におかれましては、引き続きお力添えを賜りますよう、重ねてお願い申し上げます。

　結びになりますが、ご臨席の皆様の今後ますますのご活躍とご健勝、ご多幸をお祈り申し上げまして、主催者の挨拶といたします。
　本日は、誠におめでとうございます。

令和８年 11 月 1 日
明石市長　丸谷　聡子